

2 学年 単元名「平成 28 年度 第 1 回森里海連環講演会」(1 時間)

1 単元設定の理由

近年、様々な環境問題が露呈しているが、その多くは、森と里と海の繋がりが途絶えたことで発生したと仮定し、森里海連環学の提唱者である京都大学フィールド科学センター初代センター長である田中克先生をお呼びし、森里海連環学に基本理念を学ぶ。

講師：田中 克（たなか まさる）先生（京都大学名誉教授・舞根森里海研究所所長）

演題：「森里海のつながりの再生と私たちの未来」

対象：第 2 学年 198 名

日時：7 月 1 日(金) 7 時間目

2 単元目標

近年急速に進行している地球環境問題の多くは、森林、河川、沿岸、海洋などの生態系間のつながりやこれら生態系と人間社会とのつながりが損なわれてきたために生じたのではないかと考えている。これらのつながりを科学的に解明し、取り戻し、人と自然の関わり方を考え直すための新しい文理融合型学問として京都大学フィールド科学教育研究センターが 2003 年に発足した。京都大学フィールド科学教育研究センターの初代センター長が「森里海連環学」の提唱者田中克先生である。森里海連環学では森林域、河川域、沿岸域、海域および里域における自然、人文、社会科学に関するあらゆる学問が含まれており、柳川にゆかりの深いニホンウナギがマリアナ海溝周辺で産卵・孵化し、温帯域の河川で育ち、陸域のミミズを好んで食べることから、ウナギが生きるために森里海のすべての繋がりが健全である必要がある。この様な意味で、ニホンウナギが生きるために必要な環境を作ることは森里海連環学の目指すものと一致している。今回の講演会では、森里海連環に関する講演を聞き、生徒自身で自分の意見をまとめ、自らデザインする将来の社会の在り方を模索する。

3 単元の評価基準

生徒が作成した感想文

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
	田中克先生の紹介を聞く	・紹介：木庭 3分 一斉
	田中克先生の講演を聞き、メモを取る	・田中先生の講演 45分 一斉
	質疑応答と本時のまとめをおこなう	・帰りのホームルームで感想文用紙を渡す。 ・提出は月曜日、担任まで。 ・担任は2部を選び木庭に提出。 ・木庭は田中先生と日本財団に郵送する。
	連絡 ・さらに深く話を聞きたい生徒は、掃除・終礼後、生物実験室へ	
外部連携 / 教材等 田中克先生（京都大学名誉教授）		